

20歳^{ハタチ}の原点



▲本人(下段:左)

毎回、福岡女子大学に縁のある方々を紹介します。
あの人は20歳の頃、どんなことを考え、
どんなことに迷い、どんな選択をしてきたのか。
若き日々の原点となるライフストーリー。

言語教育センター副センター長
田上 優子 TANOUÉ YUKO

福岡県北九州市出身
1984年 旧文学部英文学科卒業。
卒業後、文学部英文学科助手、助教
を経て国際文理学部・ACE講師。現
在、言語教育センター副センター長と
してACE科目授業及び運営に従事。

好きな本

サン・テグジュペリ『星の王子さま』
大切なものは目には見えない。心の目
で見なくちゃ。

表層的なものだけで判断しがちな
時、視線をずらしてみることを示唆し
てくれる本。

好きな曲

アース・ウィンド&ファイヤー
『宇宙ファンタジー』
ディスコブームの時代にダンスフロ
アでは定番でありながら、自宅ヘッ
ドフォンで爆音で聴くと私自身は「無」
になれる曲。

大学時代は1年次から体育会系
部活「硬式テニス部」に所属し、プ
レイアの時間に没頭していました。九州
の強豪私立・国立大学には全く歯が立
たない実績の部活でしたが、4学年30名
強の部員数でした。毎日練習、連休も練
習、真つ黒に日焼けし、年中ソックスのあ
とが白く残っていました。
授業の空き時間には、素振りやサーフ
の練習で汗を流す一方、同じくらの時
間をかけて菓子パン、スナック菓子を抱え
込んで学生控室(いすと長机、自動販売
機のみ設置されたたまり場)で、友人た
ちと延々とおしゃべりに興じていました。
年に数度の部活の打ち上げコパには、
様々な学科の先生が顧問と称して参加
され、そこしかお会いしない(PJ)先生方
から様々な話を聞くことができました。

文化部の花形行事とみなされていた
「文化祭(かすみ祭)」に運動部の目黒の
成果発表の意味も込め、「人間テニスマー
ン」のイベントを企画し参入しました。テニ
スコート(超ミニスコート)姿で立ち、来場した
男子学生を相手にストロークラリー10本
のお相手&紙コップのドリンク一杯100円
を提供するというイベントでした。来場者
には笑顔で、我々はガツリと活動費に補
填をすることができたWin Winのイ
ベントでした。思ったことを言葉にして実
現させる楽しさを知りました。同級生の
一人は「現在の夫君のご両親に健康美
を見初められて声をかけられ、その後お
付き合いからゴールデンというハッピーな
思い出も加わりました。
ここまで書いて、まったく勉強らしきこ
とを書いていないことに(正直すぎる文
章で)反省しております(汗)。
井の中の蛙にはなりたくなく、上級生
になると大学の外へ外へと目を向けてい
ました。午前中に授業がない日は、某私
立大学の教室での「講義」を秘密裡
に受講して共学気分を味わったり、天神
のカルチャーセンターで「英語で受講するヨ
ガクラス」に通ったり、ある時は、授業前の
早朝(7時から9時)のビジネス街の喫
茶店でモーニングセットを提供するアルバイ
トをしたりもしました。コピー利用だけ
の方、チョコレートパフをほぼ毎回オーダー
される重役らしき方など、昭和の時代の
ど真ん中で働く「企業戦士たち」の舞
台裏を垣間見て、学生の日常とは異なる
社会観察ができました。

20歳の頃は、「外へ」の意識ばかりが
強くありましたが、留学の実現は見込め
ませんでした(膨大な費用が掛かる時代
で1学年に一人くらいしか留学してい
ませんでした)。
「こしは」を紹介した仕事に就きたくて、
週末はアナウンスセミナーを掛け持ちして
は、就活準備の真似事をしていました。表
現力では、あきらかに部活動で練習を積
んだ他大学の学生の方が「上」で、レッス
ンを重ねるたびに、敗北感で一杯の感情が
押し寄せてきました。
授業はいつも最後列で受講していた超
受動的な学生でしたが、3年の後期にうち
て「英語」やその他の「一般教養科目
(共通教育)」授業を最前列で受講してみ
ると、講義内容やディスカッションする上級
生の話が興味深く感じられ、初めて「大
学での学びってこんなに楽しい」ことを知る
ことになりました。外向き志向の前に、内
側(足元)を固めて、今できることを精一杯
することの重要性に(つまり、大学で学べる
こと)にまずは専念する)運まきながらその
頃やろと気づきました。
女子大の生活は「地味で規模も小さく
つまらない」と入学後から愚痴ることも少
なからずありましたが「つまらない」自分
で行動を起すことがとても重要だと感じ
ます。大学時代に培われたイベント好きな
性格と企画実行する力は、「こしは」を介
して多くの人を巻き込み、2023年4月
23日・大学創立100周年のヨベルスタン
ト(P18参照)の開催までつながっているよ
うに思います。

特集 大学院ってどんなところ? そんな疑問を一掃!

座談会_1 人文社会科学部研究科 編

グローバル化が進む現代社会を生き抜く、
知識と能力を自分のものに。

座談会_2 人間環境科学研究科 編

学びが深まると、未来も広がる。
未知なる自然科学をさらに知る場所。

My life

株式会社 明治 西日本支社
企画部 食育・エリアマーケティング一課
管理栄養士

小坂 真由美様

20 years old as a starting point

干物

中原中也

秋の日は、干物の匂ひがするよ

外苑の輔道しるじろ、うちつつぎ、
千駄ヶ谷 森の梢のちろちろと
空を透かせて、われわれを
視守る 如し。

秋の日は、干物の匂ひがするよ

干物の、匂ひを嗅いで、うとうとと
秋蟬の鳴く声聞いて、われ睡る
人の世の、もの事すべて患^{あは}らはし
匂を嗅いで睡ります、ひとびとよ、

秋の日は、干物の匂ひがするよ

中原中也 (一九〇七〜一九三七)

詩人

山口市湯田生まれ、小学校高学年より短歌を制作し、雑誌や新聞へ投稿。益々文学に熱中し、一九二四(大正三三)年、京都での旧制中学時代に富永太郎らと知り合い、詩人としての道を歩み始める。上京後、友人たちと同人誌『白痴群』を創刊。一九三四(昭和九)年には、第一詩集『山羊の歌』を出版。またフランス詩の翻訳も手がけ、訳詩集『ランボオ詩集』を刊行。自らまとめ、小林秀雄に託した第二詩集『在りし日の歌』は、没後友人たちの尽力で一九三八(昭和一三)年に刊行された。

『新編 中原中也全集 第二巻 詩Ⅱ 本文篇』(株式会社角川書店)より

CONTENTS

特集 大学院ってどんなところ? そんな疑問を一掃!

03-06 座談会_1 人文社会科学研究科 編
グローバル化が進む現代社会を生き抜く、
知識と能力を自分のものに。

07-10 座談会_2 人間環境科学研究科 編
学びが深まると、未来も広がる。
未知なる自然科学をさらに知る場所。

11-13 **My life**
株式会社 明治 西日本支社
企画部 食育・エリアマーケティング課 管理栄養士 **小坂 真由美様**

14 研究室紹介 環境科学科 松永 千晶

15-18 FWU TOPICS

19 成果報告/人事消息

20 社会で羽ばたくなでしこたち
損害保険ジャパン株式会社 甲斐 愛梨さん

21 編纂の寄り道

22 福岡女子大学100周年記念事業



福岡女子大学広報

FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
MAGAZINE
No.120 2023 AUTUMN

特集

大学院ってどんなところ? そんな疑問を一掃!

座談会_1 人文社会科学研究科 編



人文社会科学研究科
社会科学専攻
国際関係コース 教授
宮崎 聖子

人文社会科学研究科
言語文化専攻
博士前期課程
日本語文化コース1年
甲斐 さくらさん
国際文理学部国際教養学科卒
中村学園女子高等学校出身

人文社会科学研究科
言語文化専攻
日本語文化コース 准教授
橋本 直幸

人文社会科学研究科長
言語文化専攻
日本語文化コース 教授
坂本 浩一

● 大学院の活動は学外へも、学部では経験できない貴重な時間。

坂本先生(以下坂本)：本日は人文社会科学研究科の皆さんに集まっていたくださいますが、大学と大学院とはどんなところが違うのでしょうか。実際、学生が女性だけの本学ですが、大学院に入ると、女性だけでなく学内外の男性教員・大学院生と研究を行ったり、フィールドワークを一緒に行ったりする機会もあると思います。また、大学院ではさまざまな研究領域の学会や、その地域や全国レベルの学会など学外に出かける機会もありますよね。

橋本先生(以下橋本)：そうですね。日本語教育学というのが私のゼミの専門ですが、これは外国人に日本語を教えることを主として学ぶことになりまして。どんな風にして日本語を習得していくかのプロセスの解明や教え方などの研究がメインです。学外活動としては、毎年、交流協定校であるタイのマ

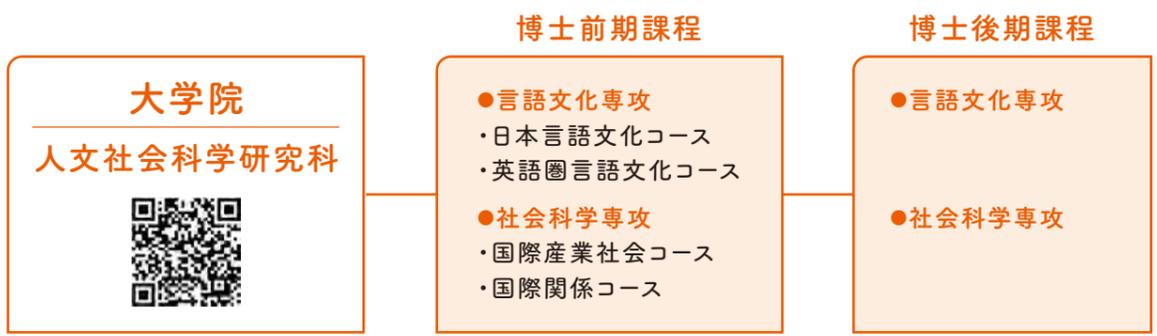
ヒドン大学に2週間の教育実習に行っています。現地の学生と直接関わり、日本語教育をはじめ、折り紙や書道などの日本文化も伝えていくフィールドワークです。大学院生という研究室に閉じこもって研究ばかりしているイメージですが、そんなことはありません。学部生とともに学外活動に参加し、学部生をサポートしながらより高いレベルで教育活動を計画し遂行するという教育リーダーとしての役割を果たしています。加えて日本語教育に関する自己の研究課題をより深く追究し具体的に証明するデータを積み上げる格好の場として海外実習を大いに活用しています。

宮崎先生(以下宮崎)：私はジェンダー研究や文化人類学を専門にしています。私のゼミの学生は留学生がほとんどですが、皆それぞれ自分のテーマに沿って、調査やインタビューに出かけるというフィールドワークを行っています。

● 大学院進学のかっけは、自分自身との対話で気付きました。

坂本：本日は現役の大学院生である甲斐さんにも参加してもらっています。甲斐さんは本学国際教養学科からそのまま進学したということですが、大学院を受験しようと思ったきっかけはどんなものでしたか?

甲斐さん(以下甲斐)：私はもともと就職するつもりで、就職活動に取り組んでいました。就活の中で自己分析シートやエントリーシートをたくさん書く機会がありました。が、書いているうちに自分自身が本当は何をしたいのか?と考えるようになりました。改めて考えてみると、私のやりたいことや楽しんでいることは授業の中にあっただけです。それが進学を決めたきっかけでした。経済的なこともあるので、まずは親に相談し、快く承諾してもらえたのでそこから橋本先生にも相談しました。話を聞くと、やっぱり私がやりたいことを叶えるためには大学院進学



グローバル化が進む現代社会を生き抜く、知識と能力を自分のものに。

自分自身、そして国内外問わず関わる人々。その中でお互いの地域や国の文化、社会、経済、法律などの違いを感じながらも、密接に影響し合うのが現代社会です。人文社会科学研究科は、そんな現代やこれからの未来を明るく生きるために必要な専門分野の研究、また、専門以外の多彩な分野まで学べる研究科です。



のSNSで使われる「打ち言葉」について研究をしています。4月から大学院に進学したのでまだスタートしたばかりで具体的には決まっていますが、このテーマで研究を進めていく上で、どういう人を対象にするのか、どういった観点でやるのか、どういう風に考察していくのかなど、細かい部分を決めている段階です。

橋本：まだあまり研究が進んでいない分野ですね。

甲斐：日本語を母語とする人同士の会話、日本語を母語としていない人と日本語を母語としている人の会話、さまざまな状況の中でどういったコミュニケーションがなされているのか、どんな言葉が出てくるのか、そうしたことをもとに研究したいです。研究することで、人の考え方や視点の違いなど、これまで気付いていなかったことに気付くことができそうです。言葉は日常の中で常時使っているもので、毎日の中に新しい発見がある。そこが研究の面白さだと感じています。



が一番合っていると思って受験を決めたという流れです。

坂本：甲斐さんの話から、大学院のあり方がわかりますね。自分でプランを描いて、自分で切り拓くことができるのが大学院。きっかけはほんの些細なことかもしれないですが、小さなことが大きな一歩につながるんですね。

宮崎：私にゼミは現在全員が中国からの留学生で、彼女たちの最終的な目的というのが日本での就職、または地元に戻って起業するというものが多数です。彼女たちにとって大学院は、人生の中の1つのステップアップの場所。本学の大学院が、そういった多くの女性のための選択肢の拡大につながり、ひいては次代を担う女性リーダーとして活躍してもらえればこれほど嬉しいことはありません。

坂本：そういう自身のステップアップとして選ばれるのが大学院ですね。学部と大きく違うところなども教えてください。

橋本：私が専門とする日本語教育学という

専門を極めるのは当然。多彩な分野を知ってこそ真の研究者。

将来は博士後期課程へ進学し、研究を生かせる道を具体的に考えていきたいと思っています。

甲斐：大学院へ進学するにあたって、気になることは主に2つあると思います。1つはどんなことをしているのか？そして2つめは大学院修了後のことです。私は実際に学部生の時に、大学院生の生活や将来のことを先輩方に話を聞いたので不安が解消されました。そういった実際の大学院生と交流する機会があれば、お互いの刺激になって進学率も高くなると思います。

橋本：本学では大学院の授業を学部生が聴講する機会を設けています。その時間は、大学院生は先輩としての責任感を感じ、学部生は先輩たちの学んでいる姿を見て進学の興味が高まって相乗効果になっていると感じます。

宮崎：社会人の方に向けても説明会などを定期的に行っているんで、ぜひ気軽に参加してほしいですね。実際に、これまで子育てで

数居は決して高くない。将来への展開も広がります。



分野は、本学大学院に限らずだと思っていますが社会人の方も多く入学してきます。学部からそのまま進学した方、留学生の方、一度就職してからキャリアアップを目指して入学してきた方などいろいろな背景を持った方が集まってくるので、そこが学部とは大きく違うところかもしれません。考え方や経験が違う人と接すると、これまでの自分だけだった世界が広がり、視野も大きく変わってきます。大学院の魅力のひとつですね。

宮崎：社会人の方はやはり経験が豊富な分、問題意識が非常に高く、学生たちも良い刺激を受けているようです。それに加え、大学院はやはり専門性の高さが学部とは違いますね。専門書や外国語文献などを読む機会も格段に増えると思うので、皆励まして頑張ってほしいです。

坂本：多様性、多面性があることで互いに高め合っているんですね。甲斐さんは実際大学院に入って、学部時代と違うところはありますか？

甲斐：宮崎先生がおっしゃったように、大学院になると専門性が高くなるので進学前は「本当についていけないのか」「やっていけないかな？」と不安になったことがあります。実際に先輩方のお話を聞いて、その不安はなくなりました。学部の生活と違うところは、授業数です。圧倒的に大学院の方が授業数が少なくなるのですが、代わりに内容が濃くなったと思います。また、授業数が少

ない分、空き時間が学部時代よりも多くなりましたが、その時間は予習復習、それに加え自分の研究も進めないとはいけません。とても忙しくて大変ですが、本当に自分のしたいことに集中できる環境はありがたいなと思っています。大学院生になると、こうして自分で時間配分を考えないといけないので責任を感じますね。

坂本：甲斐さんは、現在どんな研究をしていますか？

甲斐：X(旧Twitter)やLINEなど

これから始まる本格的な研究。日常の中に面白さを発見！



大学院のココが魅力！

大学院生だけが使える専用の部屋で毎日思いっきり研究を楽しんでいます！

本学の大学院には、各自のロッカーと机が設置された人文社会科学研究科の院生専用の部屋があります。院生になると参考資料や本などが多く必要になり、持ち歩くのは大変なのでとてもありがたい場所です。そこでは院生たちが日々勉強や研究に取り組んでいて、そんな仲間の姿を見ると自分も頑張ろうと刺激を受けます。留学生や社会人も多く、情報交換もできて毎日が充実しています。将来の夢は図書館に関わる仕事に就くこと。本=お金と思うほど本は貴重だと思っているので、本に囲まれる自分を夢見て頑張ります！



人文社会科学研究科 社会科学専攻
博士後期課程 国際関係コース3年
りょう かしょう
梁 樺晶さん 中国・広東医科大学出身

特集

大学院ってどんなところ? そんな疑問を一掃!

座談会_2 人間環境科学研究科 編

人間環境科学研究科長
人間環境科学専攻
環境自然科学領域 教授
吉村 利夫

人間環境科学研究科
人間環境科学専攻
栄養健康科学領域 准教授
南里 明子

国際文理学部
環境科学科4年
2024年度 人間環境科学研究科
博士前期課程 入学予定
きむ **金 ソンウさん**
韓国・朝鮮大 女子高等学校出身

人間環境科学研究科
博士後期課程
栄養健康科学領域1年
坂成 美来さん
中村学園大学卒
福岡県立小郡高等学校出身

学びが深まると、未来も広がる。
未知なる自然科学をさらに知る場所。

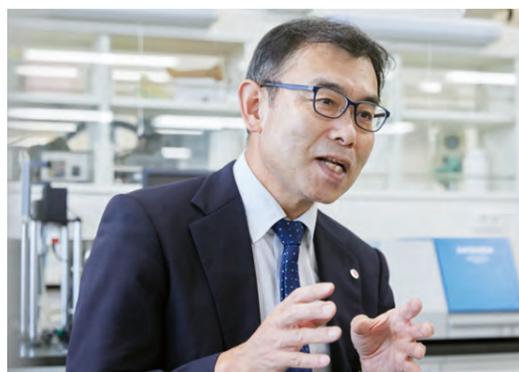
人間環境科学研究科は、人間、健康、生活、自然、理学、工学など、幅広い分野の学びを深めることができる研究科。
ここでは、私たちが毎日何気なく感じていることについて、個人がテーマを決めて研究しています。
小さな積み重ねが、やがては世界を変えるような実を結ぶかもしれない。そんな夢と希望に溢れる研究科です。

暮らしに欠かせない3領域。
きめ細かな教育が自慢です。

吉村先生(以下吉村):人間環境科学研究科のキーワードは「健康な生活を支える環境調和型社会づくりを目指す」というものです。博士前期課程では1専攻の中で自然環境の現象や社会の環境問題を総合的に学ぶ「環境自然科学領域」、食や健康に関する諸問題の解決について学ぶ「栄養健康科学領域」、そして人間の生活環境に関する諸問題を扱う「環境マネジメント領域」という3つの領域があります。どの領域も身近な人の暮らしに関する研究を行っており、幅広い視野と高い専門性を身につけることができる環境が整っています。本学は少人数制で教員と学生との距離が近く、きめ細かな教育や研究ができるのも大きな魅力です。今回はそんな本学の大学院の人間環境科学研究科について語っていただきます。

大学院への進学。
それぞれの想いは。

吉村:そもそもみなさんが大学院に進学したきっかけを教えてください。
南里先生(以下南里):私は本学の大学院を修了しました。初めは他大学の大学院への進学を考えていましたが、4年生のときに研究室の先生にも相談をし、今研究していることをそのまま継続して進めていきたい



と思い、本学の大学院へ進学することを決めました。研究を3年間継続して行うことで、もっと学びを深めることができるのではと思いました。
坂成さん(以下坂成):私は一度他の大学を卒業して、調剤薬局の管理栄養士として働いていました。地域の方々に栄養指導などを行っていましたが、そんな中で「自信を持って栄養指導ができていない」と感じ始めたのです。それが大学院進学を考え始めたきっかけでした。もともと大学時代から大学院に憧れはあったのですが、その時は金銭的な不安もあり一旦就職しました。就職しておかげで、自分の足りないものなどが明確になった感じです。進学を決意して、本当に自分がやりたいものは何かを再確認する

進学を決意!
まず最初にやったことは?

吉村:皆さん、進学のきっかけもさまざまですね。最近坂成さんのように社会人の方が大学院へ入学するリカレント教育が話題ですが、みなさん、どうやって情報などを手に入れているのでしょうか?
金:3年生くらいから周りほとんど就職活動を行っていましたが、私はやはり大学院に進学したくて、本学で行われている説明会などに参加していました。実際に大学院の先輩に話を聞く機会もあったし、研究室の指導教員である吉村先生にも相談し、

博士前期課程

- 人間環境科学専攻
- ・環境自然科学領域
- ・栄養健康科学領域
- ・環境マネジメント領域

博士後期課程

- 人間環境科学専攻
- ・環境科学領域
- ・栄養健康科学領域

大学院
人間環境科学研究科





やっぱり本学の大学院に進学したいと思いましたが。本学に通いながら情報を得られたので、とても思われた環境だったと思います。

坂成：私は先輩からの情報はなかったのですが、大学院進学にあたって、まずはどの研究室がいいのかを調べました。自分の興味があるキーワードを論文検索サイトで見てみると、南里先生のお名前がよく出てきて、「この先生は栄養疫学をされているんだな」と知ることができました。先生のお名前調べてみると、偶然にも私の出身地にある本学の先生だったので、まずは直接メールをしました。南里先生から快く返信をいただけただけで、ここだ！と進学先を決めて、そこから



栄養疫学研究における調査の様子

研究が楽しくなって、そこから歯車が回り始めてどんどん研究にのめり込んでいったという感じです。皆さんは研究にどのような楽しさを感じますか？

南里：私は、糖尿病やうつなどの生活習慣病予防のための栄養疫学研究を行っています。以前、米飯摂取と糖尿病発症に関する論文を発表しましたが、検討を始めた当初は、ご飯は日本人の主食なので、もうすでに論文があるのではないかと思っていました。しかし、調べてみると意外にも研究が少なく、日本の研究はありませんでした。米飯摂取が多いほど糖尿病のリスクが高いという結果を論文にまとめたところ、反響が大きくなり、新聞やテレビなどでも取り上げていただきました。うつに関しては、食要因との関連を検討した研究は最近では増えつつありま

は本学のアドミッションセンターを通じて過去問を確認するなどし入試に向けて準備を始めたというのが進学への流れです。

吉村：今はネットの時代だから、自分の興味がある論文を検索して、どんな先生がいるのがすぐにわかるのがいいですね。大学院へ進学するというのは大学の入学とはちょっと違って、「この先生のもとで「こんな研究」をしたい」という目的をしっかりと持つことが重要なポイントになってくると思います。坂成：まさにその通りだと思います。大学の名前ではなく、やりたいテーマとそれを論文にしている先生がいる大学院に行つた方が自分とマッチングすると感じています。

毎日の研究の中に、 たくさんの発見と 面白さがある。

吉村：坂成さんは今、博士後期課程の真の只中、金さんは来年度から大学院へ進学するということですが、現在はどうな研究をしていますか？

坂成：私は博士前期課程では生活習慣要因や酸化ビタミンの摂取について、博士後期課程では野菜と果物の摂取や日本食について研究しています。これらの食要因と循環器疾患や動脈硬化のマーカーとの関連を検討するという5年間でつながりのあるテーマに取り組んでいます。酸化ビタミンは栄養素野菜や果物は食品、日本食は食事という

ですが、以前は少なく、また、思った以上に食要因がうつと関連していることが分かってきて。吉村先生と同じように、これまでよく分かっていたことに取り組み、新たな知見を見出す喜びや嬉しさが、次の研究へのモチベーションにつながりました。

吉村：これだけ科学技術が発達していて、なんでも解明されているように感じるかもしれませんが、実はまだまだ取り組まれていないことがたくさんありますよね。自然の奥深さを感じます。

坂成：私はまだ先生方みたいに大きな発見はなし得ていないのですが、まず就職した後でもこんなに夢中になれることに出会えた喜びを感じています。研究にはさまざまな工程があつて、中には時間がかかるものや楽しくないこともあります。それを積み重ねていくとバラバラだったものがつながってくる。それが毎日とても楽しいです。これからさらに研究を進めていき、先生方のようなあつと驚くような発見もしてみたいです。金：私はまだ本格的な研究に入っていないですが、知らなかったことがわかるようになるのはとても楽しいなと思います。早く大学院で思いっきり研究したいです。

学生も社会人の方も、 大学院はもっと 身近な存在です。

吉村：こうして皆さんと話をしていると、改

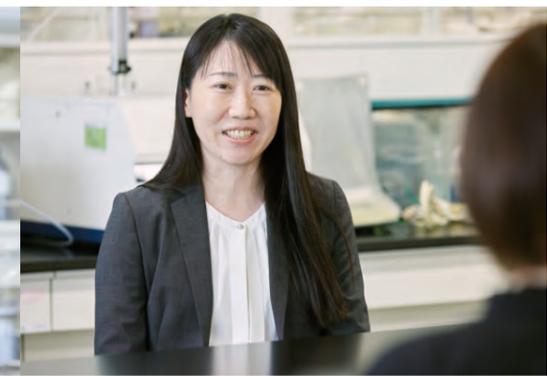


大きさが違う括りがあり、この違いが他の栄養素や食品との相乗効果を生みもしかしから動脈硬化などのマーカーとの兼ね合いが変わってくるのではないかと、それが私のコアな研究です。薬局で働いていた時、患者さんの血液検査の数値を見て野菜を食べましょうなどと言っていました。実際に論文を読んで、科学的根拠をよく理解した上で栄養指導を行っていたわけではありませんでした。これから研究を深めて科学的根拠を多く出して、「こう食べたらこう変わる」と実感しやすい、生活に根付いた研究を進めていきたいです。

金：私は水溶液中でデンプンを反応させて高吸水性樹脂を創るという研究をテーマにしています。現状、高吸水性樹脂は紙おむつや生理用品などに多く使われていますが、

石油原料で作られているので環境に負担をかけてしまっています。吉村先生は植物原料から高吸水性ポリマーを作る研究をされているのでアドバイスをいただいて、熱いお湯に溶けるデンプンに着目しました。環境に優しくして、使いやすい素材を作り出したいです。

吉村：娘たちが小さい頃、紙おむつのゴミが出ていて環境に良くないなと気になっていて、本学に就任した約20年前から研究を続けています。今は企業との共同研究なども行つているところです。実は私、学生時代はあまり研究熱心ではなかったのです。実験が面倒だなと思うこともしばしば。でも、ある時ふとしたことがきっかけで意外な研究結果を出すことができたのです。本当に偶然でしたが、そういう発見があると俄然



めて大学院とはそんなに特別なところではないと感じます。自然科学や人のさまざまな作用など、広い意味での自然科学分野というのはまだまだ知られていないことも多く、私たち人間の小ささを感じますね。幅広い自然科学分野をより深く学ぶために、大学院進学してから社会に出ても決して無駄ではありません。限られた人ではなく、もっと身近な場所として大学院のことを知ってもらえたら嬉しいですね。

南里：進学することや同級生から遅れて就職することに不安を感じる人もいるかもしれませんが、大学院で学んだ知識や技術によつて、就職の幅は大きく広がると思います。経済的なことも、現在は支援環境が整っていますので安心して研究に専念できると思います。

坂成：金銭的な不安があつても、やりたい気持ちさえあれば大丈夫だと思います。当初は経済的なことも気になっていましたが、研究を進められた業績を出すことで奨学金や返金免除の制度などがあり、私も利用しています。研究を頑張ることで金銭的な不安がなくなるなんて本当に助かります。

吉村：頑張るほどに、経済的なハードルも低くなるんですね。学生はもちろんですが、社会人で学び直しをしたい方やスキルアップを目指す方など、まずは大学院進学を視野に入れて気軽に説明会などに来てもらえたらと思います。一緒に未来へつながる研究をしましょう！

思い立ったらすぐ行動。
今、この瞬間を満喫してください。



自分が一番じゃないとイヤ。
アイドルに憧れた幼少時代。

—どんな子ども時代でしたか？

私は三人兄妹の末っ子で、兄と姉に可愛がられて育ちました。幼い頃は自分が一番じゃないとイヤ！という性格でした。

—その頃の夢を教えてください。

アイドル歌手に憧れていました。小学生の時の授業で「将来の夢を替え歌にして歌う」というものがあり、ふもしも私がアイドル歌手だったなら、素敵なドレスを着て、素敵な花の中でも素敵な歌を歌

いた！とクラスで発表しました。今でもこうして歌えるほど鮮明な記憶です(笑)。

—そこまで覚えているなんてすごいです！その頃、夢中になっていた文学や美術、音楽、趣味などはありますか？

小学生の時、CDショップで歌詞カードをもらってきいては、歌いながら登校してましたね。中学生からは友達とカラオケ三昧。カラオケは今でも大好きです。マイクを持つと降臨してくるんですよ。ステージ(椅子)に立ち、アリーナにいる観客(友達)に向かって絶叫しています(笑)。

たくさんさんの出会いが
刺激をくれた学生時代。

—学生時代にやってよかったこと、やっておけばよかったことはありますか？

大学時代は、お金はあまりありませんでしたがとにかく時間がたくさんあったので、スポーツや旅行、グルメなど、とにかく自分の興味があることをとやめずやってました。その中で特に印象的だったのは、アルバイトでの経験です。私は焼肉屋や鍋屋など飲食のアルバイトをやっていました。そこでは老若男女を問わずたくさんのお客さんがいました。多くの人と接する中で、価値観の違いがあること、色々な考え方や見方があること、とても刺激を受け



長することができたと思います。また、大学のクラスメイトとの出会いは、特別なものでした。4年間共に学び、助け合い、思いっきり遊びました。卒業して16年が経ちますが、今でも仲良く、頻りに集まっています。独身の頃は、よく飲みに行っていましたし、子どもが生まれてからは、子連れで集まっていますね。今年20人で花見をしました。学生時代の友人は、一生の宝物です。やっておけばよかったこと、…、しつて言うなら、もっと勉強しておけばよかったかなと思います。けれど、楽しいことがいっぱいだとにかく大満足の学生時代でした。

社会人として、女性として、
忙しいけど充実した毎日です。

—将来の明確な目標を決めた時期はいつ頃でしたか？

私たちの時代は大学4年生になつてから本格的に就職活動をしていました。管理栄養士の資格を活かしつつ、企業で働きたい、そしてできれば福岡から出たくない！という希望がありました。が、なかなかそのような企業はなくて…。弊社の求人を見た瞬間、「こた！と思えました。余談ですが、小学校実習に行った際には校長先生から「栄養士じゃなくて、お笑い芸人になった方がさよ」と言われ、病院実習では「栄養士と

INTERVIEWER



人文社会科学部
国際関係コース 修士2年/
中国湖南省邵阳市第四中学出身

せき そよこ
石 楚鈺さん

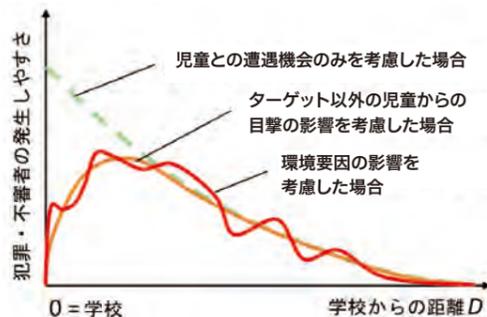
株式会社 明治 西日本支社
企画部
食育・エリアマーケティング課
管理栄養士

こさか まゆみ
小坂 真由美様

福岡県大川市出身。2007年福岡女子大学人間環境学部栄養健康科学科卒業。在学中は高齢者の栄養についての研究に携わる。卒業後、明治製菓株式会社に入社。九州エリアのスポーツジュニアをはじめ、部活生や指導者、保護者の方々に対し、食事の重要性を伝える活動をしている。現在は2児の育児中。



お遊戯会では、メインのパレリーナ役に立候補



犯罪・不審者の発生しやすさと学校からの距離の関係のモデル図
環境犯罪学の理論を用いて犯行企図者やターゲットの行動について仮説を立てながら実際のデータを説明できるようにしたものです。



小学校区でのみまもり活動の例
小学校区では自治協議会による登校時のみまもりや青パトによる巡回などが行われており、地域の安全安心に貢献しています。

安全・安心なまちや地域の実現に向けて — 交通計画と都市計画・まちづくりからのアプローチ

みなさんの住んでいるまちや地域は、安心して暮らせる環境でしょうか？夜道をひとりで歩いていて不安になったり、実際に危険な目に遭ったりしたことはないでしょうか？確かに日本は世界でもトップクラスの治安の良い安全な国ではありますが、毎日のように不審者などの情報を目にする現状を鑑みると、少なくとも安心については十分とは言えないのではないのでしょうか。

住環境学研究室では、「地域の安全・安心

に影響する要因は何か？」、「地域の環境整備や交通規制、地域活動でこれらの要因をコントロールすることは可能か？」という問いに基づき、主要テーマのひとつとして安全・安心まちづくりに関する研究に取り組んでいます。特に、環境犯罪学のルーティン・アクティビティ理論¹⁾やCPTED (防犯環境設計)²⁾のコンセプトから、小学校区での子どもの登下校をはじめとした屋外活動における犯罪や不審行為、交通事故との遭遇や不安喚起事象と、環境要因

に影響する要因は何か？、「地域の環境整備や交通規制、地域活動でこれらの要因をコントロールすることは可能か？」という問いに基づき、主要テーマのひとつとして安全・安心まちづくりに関する研究に取り組んでいます。特に、環境犯罪学のルーティン・アクティビティ理論¹⁾やCPTED (防犯環境設計)²⁾のコンセプトから、小学校区での子どもの登下校をはじめとした屋外活動における犯罪や不審行為、交通事故との遭遇や不安喚起事象と、環境要因

や地域活動との関係についての調査・分析やこれら安全・安心を脅かす事象の発生メカニズムを説明するモデルの作成を試みています。

この研究を始めたのは、所属していた九州大学交通システム工学研究室(交通研)で指導教員であった教授と「交通計画やまちづくりの手法で路上犯罪を予防することはできないか」と考えたことがきっかけでした。当時は助教でしたが、学部4年から所属していた研究室で、それまでは主にリクリエーション交通の現象分析や人の選択行動を説明するモデルに関する研究を行っていました。実のところ土木工学を志望していたわけではなかった³⁾のと、3年時に同研究室の先輩たちとお話できる機会があり、教授の人柄や研究室の雰囲気惹かれたことで王道(土木)ではなく土木工学を選んだことかもしれません。もうひとつ白状すると、3年時の先輩たちのお話で初めて大学院の存在を知り、あまり実感のなかった就活から「交通研」に入っ

様々な偶然が重なって始めた安全・安心まちづくりの研究ですが、最近では国内外の研究者との交流も増え、地域の人的つながりや活動などの影響や、C-I-M(子ども)の移動自由権といった新たな要因や視点からの研究も進みつつあります。今後さらなる安全・安心なまちの実現に向け、一層の知見の蓄積に努めていきたいと考えています。

<参考文献>

- 1) Cohen, L. E., & Felson, M. (1979). Social change and crime rate trends: A routine activity approach. *American sociology review*, 44(4), 588-608.
- 2) Crowe, T. D. (1991). Crime Prevention Through Environmental Design. Butterworth-Heinemann.
- 3) 「土木に関わる人間が土木を離してどうする」九大OG系ドボジョが語る「土木の魅力」とは？(web記事), 施工の神様, <https://sekokan-navi.jp/magazine/57138>, (最終更新日: 2022.08.16)



国際文理学部 環境科学科
住環境学研究室
准教授 松永 千晶

九州大学工学部卒業、九州大学大学院工学研究科博士前期課程修了、九州大学大学院工学研究院助教、フランスのルノー財団 ParisTech (国立土木学校、エコールポリテクニク、パリ国立高等鉱業学校) 修士課程修了などを経て2020年より現職。専門は土木計画学、都市計画学、交通計画学。博士(工学)。



「プライベートと仕事の両立で意識していることはありますか？」
現在、小学生の息子と保育園の娘がいますが、仕事との両立は本当に大変です。とにかく毎日バタバタです。慣れない頃は奮闘しましたが、今は子育てと仕事、どちらも100点を目指すのではなく、両方を足して100点でいいかなと思うようになりました。仕事はサポートしてくれる仲間

「やらなくて後悔するより、やって後悔した方が良いでしょう。毎日時間に追われているので、思いついたことはすぐにやろうと思っ

「好きな言葉を教えてください。」
「やらなくて後悔するより、やって後悔した方が良いでしょう。毎日時間に追われているので、思いついたことはすぐにやろうと思っ

「これからの夢を教えてください。」
現在、スポーツ栄養の普及活動を行っています。「もっと強くなりたい！」というジュニアや部活動生に対し、バランスの良い食事の揃え方・カラダづくり、試合時の栄養戦略など、講習会をしたり食事調査をしたりしています。関わっている子どもたちが良い結果を出せるととても嬉しいので、これからもたくさん子どもたちとその保護者に、正しい情報を伝えていきたいと思っています。

「最後に大学生に向けてメッセージをお願いします。」
思い立ったが吉日です。やりたいと思っ



My life - 過去の記事 -

116号
2022.1

株式会社 Q-CAP
代表取締役社長

藤本 久美様

114号
2021.7

凸版印刷株式会社
九州事業部企画販売本部
TIC企画一部 部長

石橋 匠様

117号
2022.3

日本航空株式会社
地域事業本部 地域アンバサダー室
JALふるさとアンバサダー
リードキャビンアテンダント

坂井 由起子様

115号
2021.10

株式会社電通九州
インテグレートッド・ソリューション局
専任局長 兼 新規ビジネス開発室長

小野 和美様



08 2023.04.21 - 05.02 / 05.08 - 06.30

さかいようこ「人間と核」展／美術作品寄贈

人間と核をテーマに作品制作を続ける本学卒業生のさかいようこ氏による第7回春の企画展を開催し、絵画作品約70点が図書館棟を彩りました。展覧会期間中は、本学の100周年記念イベントやミュージアムウィークも重なったとあって、一般の方の来場も多く、賑わいました。

【美術作品寄贈について】

梶山千里前学長から、吉川幸作氏の絵画作品を2点、さかいようこ氏から絵画作品を7点、新たに寄贈いただきました。誠にありがとうございました。



12 2023.05.20 - 06.30

福津市、イオン共同開発「美味ヘル!7種の彩り丼」の発売と記念イベント

食・健康学科栄養教育学研究室の4年生が考案したレシピをもとに福津市とイオン九州の3者で共同開発した「美味(うま)ヘル!7種の彩り丼」が福岡県内の「イオン」「マックスバリュ」18店舗にて、5月20日(土)～6月30日(金)に期間販売されました。販売初日には、イオン福津店において、記念イベントを開催し、学生達は来店者に野菜がたっぷりとれて栄養バランスのよい弁当の特徴をPRし、野菜摂取のメリットを説明しました。



13 2023.06.28

低学年対象 就職対策講座「就活のあれこれ」

低学年時の早い段階から高い就業意識の育成を図る事を目的に、1・2年生を対象とした就職対策講座を実施しました。就活スケジュールや、採用の動向、企業が求める人材について学び、世の中の業界・職種について調べるグループワークを行いました。グループワークでは、企業の新卒採用ページで具体的な働き方や職種を調べながら参加者同士で活発な意見交換ができていました。「大学生活で頑張った事が就活だけでなく社会人になってから必要とされる力に繋がる事が分かりました」と新たな発見もあったようです。



14 2023.07.05 - 07.07

JANOG 52 Meeting

長崎県で開催されたJANOG 52 Meetingに、環境科学科神屋郁子講師と4年の稲富花保さん、越田麻莉さんが現地のネットワーク構築スタッフとして参加しました。JANOGは日本のネットワーク技術の最新動向などについて発表・議論する場で、当日は2000名を超える来場者に対して、高品質な無線ネットワーク環境を提供することができました。



15 2023.07.06

株式会社やずやと包括的連携に関する協定を締結

福岡アイランドシティフォーラムにおいて、株式会社やずやとの包括的連携に関する協定調印式を開催しました。株式会社やずやは、向井剛理事長兼学長と太田雅規副学長が出席しました。今後は、食や栄養の観点から、健康に役立つ研究・情報発信など、幅広い連携活動を行なっていきます。



09 2023.04.28

「森崎和江文庫」の公開について

本学の前身である福岡県立女子専門学校の卒業生で、詩人・作家の森崎和江さんの蔵書約2,000点が、2020年1月に本学に寄贈されました。それらの蔵書をまとめ、このたび「森崎和江文庫」として図書館 中2階にて公開いたしました。

図書館ホームページでは、蔵書リストを公開しています。また「森崎和江文庫」の利用方法、注意事項等についても掲載しておりますので、図書館ホームページをご参照のうえ、ぜひご利用ください。

【図書館ホームページURL】<http://www.fwu.ac.jp/lib/>



10 2023.05.16 - 05.18

派遣交換留学生帰国報告会

5月16日から3日間に亘り、交換留学から帰国した学生の成果報告会をオンラインで開催し、半年から1年間の留学を終えた学生たちが英語、フランス語、中国語、韓国語など、それぞれが留学先で学んだ言語を使って履修した授業や留学中の経験などについて報告しました。また、留学を目指す学生へのアドバイスもあり、留学を修了した学生の成長を感じるだけでなく、今後留学を考える学生にとっても明確なビジョンを得る良い機会となりました。

学生発表スライド(抜粋)▶



11 2023.05.20 - 05.21

イングリッシュビレッジ

学生に人気の国際プログラムであるイングリッシュビレッジは、コロナ禍以降3年ぶりに1泊2日の合宿として実施され、日本人学生44名、外国人留学生16名の計60名が参加しました。プログラム中は日本語は一切使用せず、英語のみで授業やアクティビティに参加するので、日本にいな海外留学を疑似体験することができます。今回参加した学生も時には英語に苦戦する様子も見られましたが、流暢な英語を話す先生や留学生から刺激を受け、語学力アップに向けて目標を定める良い機会になったようです。



04 2023.03.09

国際フードスタディセンター 公開ワークショップ

福岡女子大学創立100周年を契機に、本学の更なる飛躍に向けて、2022年4月に設置した国際フードスタディセンターは、「国際フードスタディセンターの担うべき役割～食と栄養の課題解決に向けて～」をテーマとした公開ワークショップを開催しました。高齢者に着目し、医療・福祉・介護・食品等の現場における顕在・潜在する課題について、活発な意見交換が行われ、本センターの果たすべき役割が示唆されました。



05 2023.03.17

福岡女子大学第70回・大学院第29回卒業式

学部生221名、大学院生18名が卒業した今年度は、卒業生全員が会場に集い、福岡県の服部知事をはじめとするご来賓の臨席のもと、式典を執り行いました。久々にマスクを外して晴れ晴れとした表情を見せる卒業生も多く、会場は華やかな雰囲気になりました。

向井剛学長は「ここにしかない学修を終えた皆さんにとって、これから社会に乗り出すうえで、FWU(福女大)は大きな自信と誇りになるはずだ。」と述べ、卒業生を激励しました。



06 2023.03.25

春のキャンパス見学&相談会

来校型の春のキャンパス見学&相談会を開催し、約300名の方が参加しました。

当日は、学生による大学基本情報のプレゼンテーション、なでしこ寮の動画紹介と見学ツアー、留学を経験した先輩大学生とのディスカッション、大学生と高校生が多言語で会話を楽しむLanguage Cafe、質問アースなど学生スタッフが企画から運営まで行いました。またスタンプラリーも実施し学内の施設を巡ってもらうなど、参加したみなさんに福女大の魅力を知っていただく良い機会となりました。



07 2023.04.03

福岡女子大学第74回・大学院第31回入学式

創立100周年という大きな節目の年に入学した学部生247名、大学院生19名を祝い、式典に先立って福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラの学生が記念演奏を行いました。

新入生宣誓では、青山千紘さん(環境科学科)が「福岡女子大学の一員であることの自覚と誇りを持ち、未来に向かって日々、研鑽に励み、有意義な学生生活を送りたい」と述べました。

式典後は友人同士や保護者と記念撮影するスーツ姿の新入生の姿が多く見られました。



01 2022.12 - 2023.03

オイシックス・ラ・大地株式会社とPBLを実施

食品宅配などの事業を手がけるオイシックス・ラ・大地株式会社と本学3研究室(新開研、櫻木研、藤野研)合同でのPBL(Project Based Learning)を2022年12月から3か月間にわたり実施しました。オイシックス・ラ・大地株式会社様に提供していただいたデータを基に、異なる学科に所属する3研究室の学生が各研究室の専門知識(食ビジネス、マーケティング、データ解析)を生かしてビジネス提案の作成に取り組み、2023年3月3日に、本学にて成果報告会を行いました。ご参加いただいたオイシックス・ラ・大地株式会社関係者の方からは高い評価をいただき、参加した学生にとっても大変貴重な経験となりました。



02 2023.01.21

女性トッパーリーダー育成研修フォローアップ研修及びソサエティ・シンポジウム

2022年度女性トッパーリーダー育成研修のフォローアップ研修を対面で実施しました。午前は、11月の宿泊研修時の課題についてグループ内で共有やフィードバックを行い、自分の将来のビジョンについて全受講者が発表しました。その後、向井学長より講評と修了証書の交付が行われました。午後は、本研修の一環である、トッパーリーダーソサエティ・シンポジウム(交流会)を開催しました。基調講演にはKIGURUMI.BIZ(株)代表取締役の加納氏をお迎えし、トップとしての経験や考え方について、お話をいただきました。また加納氏と本学社会人女性向け3研修の修了生代表によるディスカッションを受けて、会場のシンポジストと活発な意見交換が行われました。シンポジウム後の交流会では、研修の垣根を超えた意見交換やお互いの研修について紹介し合う姿が見られ、参加者の学ぶ意欲の高さがうかがえました。



03 2023.02.28

女性のためのウェルカムバック支援プログラム第4期修了式

「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」は、教育→企業とのマッチング→インターンシップ→職場復帰というモデル体系に沿った社会人女性に向けたプログラムです。昨年9月13日開講以来、受講生の皆さんは約5ヶ月間にわたって、21回の授業(一部オンラインで実施)、福女大ウェルカムバックドラフト会議、インターンシップを経て、修了を迎えました。

思い出のスライドショー鑑賞、修了証の授与を終え、充実した学びとかけがえのない仲間を得た受講生は、明るい笑顔で次のステップに向け歩み始めました。



第10回ホームカミングデー



A ゴスペルシンガーNOBU氏による合唱 B メイン会場の様子 C 写真パネル展示場の様子 D 合唱サークルConpasによる合唱 E 懇談スペースの様子 F 平成29年度筑紫海会賞受賞者眞栗田夢歌さんによる講演 G 令和3年度筑紫海会賞受賞者木村明莉さんによる講演

2023年4月23日(日)午後、「福岡女子大学第10回ホームカミングデー」を開催しました。ホームカミングデーは卒業生や退職された教職員の方々を本学にお迎えし、在学生や教職員との交流等を通して、母校への理解を深めていただくことを目的としています。

今回は、創立100周年を記念して、同窓会筑紫海会と共催で企画し、当日は卒業生、退職教職員及び在学生を含め約200名以上の方が来場されました。

オープニングでは新開副学長、花崎同窓会長からのご挨拶、筑紫海会賞受賞者報告会では卒業生の眞栗田夢歌さん、在学生の木村明莉さんから自身の大学生活で取り組んだことなどについて発表いただきました。また、マンドリンクラブと福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラの演奏に合わせて校歌と坂本九メドレーを合唱しました。

その後、各会場で各学科の企画やサークル活動の発表、懐かしの先生方のご講演があり、各所に設けた懇談スペースでは懐かしい顔ぶれで集まり、飲食を楽しみ、思い出話に花を咲かせている様子でした。

フィナーレにはゴスペルシンガーのNOBU氏の指導によるゴスペル合唱など、賑やかな交流が行われました。

日時	2023年4月23日(日)12:30～17:00
場所	講義棟、図書館・美術館、多目的演習スペース
来場者	225名 卒業生 210名 ※受付人数 退職教職員・後援会・本学関係者 15名
内容	<ol style="list-style-type: none"> オープニング <ul style="list-style-type: none"> ①大学代表者挨拶 ②同窓会長挨拶 ③プログラム紹介 筑紫海会賞受賞者報告会 サークル演奏による合唱 自由見学 <ul style="list-style-type: none"> ①学科ブース(国際教養学科、環境科学科、食・健康学科、文学部) ②サークルブース(福女大フィル、マンドリンクラブ、合唱サークル、雑貨工房) ③懇談スペース ④図書館・美術館の自由見学 グランドフィナーレ

100周年記念式典



A 向井理事長兼学長式辞の様子 B 伊藤氏による記念講演の様子 C 校歌演奏・斉唱の様子

来賓の企業・団体等の皆様、並びに本学の卒業生、教職員、学生など約400名の参列のもと100周年記念式典を開催いたしました。

式典では、向井理事長兼学長の式辞の後、瓜生100周年記念事業推進会長(九州電力株式会社代表取締役会長)、大曲福岡県副知事、古田文部科学省高等教育局大学教育入試課長から祝辞を賜りました。

記念講演では、本学大学院の修了生であり小児科医の伊藤瑞子氏から『「育児の共有」から新しい未来へ』の演題でご講演いただきました。ご自身の経験で仕事と育児の両立の大変さ、社会の不平等さを感じられたことから、夫婦共に育児を行う「育児の共有」が社会全体で当たり前となれば、この国はもっと住みやすくなるのではないかと、という次代を生きる女性にとっても大変貴重な内容の講演でした。

最後に、マンドリンクラブと合唱サークルによる校歌の演奏と斉唱が行われ、盛会裡に式典を終えることができました。

日時	2023年4月23日(日)9:45～12:00
場所	大学会館、講義棟 C101(学生)
来場者	約400名 来賓・企業等 約90名 卒業生 約180名 近隣校・自治体・寄贈者等ほか 約70名 学内関係者 約60名
内容	<ol style="list-style-type: none"> 歌劇ザ・レビューHTBによるレビュー記念歌劇公演 理事長兼学長挨拶 100周年記念事業推進会長挨拶 来賓紹介 来賓代表挨拶 特別功労者表彰 名誉教授称号授与 教職員、学生表彰 記念講演 (小児科医 伊藤瑞子氏『「育児の共有」から新しい未来へ』) 校歌斉唱

OPEN THE DOOR



扉の先に未来がある

社会で羽ばたく なでしこたち

#8

コミュニティの広がり 人間力を培った寮生活



損害保険ジャパン株式会社
甲斐 愛梨さん

2014年度 国際文理学部環境科学科 卒業
2017年度 人間環境科学研究科
人間環境科学専攻 博士前期課程 環境マネジメント領域 修了

福岡女子大学に入学しようと思ったきっかけは、「国際学友会なでしこ」です。私が入学した年が、なでしこ寮での全寮制という制度が始まる年でした。「留学生との国際交流の場」、学生が寮運営に携わるというフレンドから、何か面白い経験をしながら、社会に出る前に小さなコミュニティ運営を経験出来そうというイメージを持ちました。実際に寮では、フロアリーダー・なでしこ

メイトとして2年間寮運営に参加することができ、友達と楽しく寮生活を行う為の、より良い環境づくりという自発的な目的を通して、コミュニティ統率の難しさや、企画運営の面白さを学ぶことが出来ました。自分が変わったきっかけは、大学入学と同時に、実家を離れ寮生活や一人暮らしを始めたことだと思います。入学前までは、周りに合わせて生きていた為、自発的に考え行動することを放棄していました。家族に支えられつつ、一人で生活しながら大学に通い学び、様々なコミュニティと繋がりを



大学時代のメンバーと、香椎浜で撮影した青春の一枚です。笑

人との関わりの大切さ
新卒から、損害保険ジャパン株式会社に勤務しています。入社から5年間は福岡で企業団体がお取引先となる営業部門に所属していましたが、昨年度社内制度を利用してのチャレンジを行い、今年の4月からは東京にある本社で介護関連事業の企画運営・推進業務を行っています。社会人になっても、常に成長し続ける必要はあるため、知識習得のための勉強など努力しなければならぬことは沢山ありますが、正直に言うと、社会に出たからといってすごく苦労したと思うことはありません。

持ち始めることにより、自分がどんな時に楽しいのか、どういう人生を歩みたいのかなどを考え始めるようになりました。

福女大生へのメッセージ

大学生は、制限がありながらも、浅く広くいろんな事にチャレンジしやすいタイミングだと思います。少しでも興味があるなと思ったことは、ちょっと面倒でも足を突っ込んでみて良いかもしれません。もしそれが失敗したとしても、失敗から学ぶという貴重な体験をすることが出来ます。自分の人生が楽しくなるかどうかは、自分次第です。せっかくなら楽しみましょう！

人。大学から社会という新しく大きなコミュニティに入っていくことによる、ギャップ、不安など初めはありますが、私は周りに素晴らしい先輩方が多くいて、頼れる環境があった為、苦労したと感ずることが少なかったのではないかと思います。本当に環境に恵まれていました。学生時代に大学、サークル、バイトなど様々なコミュニティの人と関わり、相談出来る関係を構築出来ていたことは、自分にとって良かったと思っています。福岡女子大学は、女性リーダーシップや自律心を育むカリキュラムが充実しており、地域社会との連携を重視した活動を行う大学というイメージがあります。真面目で勤勉というイメージもありますが、最近性別にとらわれず自発的に考え行動できる学生というイメージも大きくなってきているのではないかと思います。

日本都市計画学会九州支部2022年度支部長賞受賞

環境科学科4年生(2023年卒)の守田夏音さんの卒業論文「人口分布の経年変化を考慮したコミュニティバス需給分析—福岡県糸島市を対象として—」が都市計画・まちづくり分野の優秀な卒業論文を対象とした日本都市計画学会九州支部2022年度支部長賞を受賞しました。コミュニティバスは高齢化やコロナ禍での移動需要の変化などにより、廃止や見直しを迫られています。当該研究は、高齢化に加え、市町村合併や大学のキャンパス移転など特殊な条件を考慮したコミュニティバスの需給バランスと今後の対応策を論じており、得られた結果が糸島市にとって今後のコミュニティバスの運行方針の検討に有用な知見になりうる点を評価され、推薦および受賞に至りました。



九州地区大学体育大会にて3位入賞

4年振りに開催された九州地区大学体育大会のバスケットボール競技において、本学のバスケットボール同好会「WINsomeBallers」が見事3位入賞しました！

創部2年目で大会出場した同団体の佐々木部長は「この度は九州地区大学体育大会において、同好会でありながら初出場で勝利を収めることができ、とても嬉しく思います。また、これからの活動もより一層頑張り、楽しんでいきたいと思っております」と喜びを語りました。



全国栄養士養成施設協会 会長表彰

2022年度 全国栄養士養成施設協会の会長表彰に、食・健康学科の竹島千聖さんが選ばれ、表彰されました。

この賞は、一般社団法人全国栄養士養成施設協会会長から栄養士養成課程または管理栄養士養成課程を優秀な成績で卒業する学生に授与されます。竹島さんは本学での4年間にわたる努力が大きな成果に繋がりました。



人事消息

【教員】			
新任	国際フードスタディセンター	教授	脇坂 港
	国際教養学科	准教授	朴 紅蓮
	環境科学科	助教	竹本 直道
昇任	環境科学科	教授	藤野 友和
	国際教養学科	准教授	石神 圭子
	国際教養学科	准教授	河原 梓水
【職員】			
退職	100周年記念事業推進室	-	佐藤 亜矢
	アドミッションセンター	-	後藤 瑞貴
新任		副理事長	梶原 公徳
		常務理事兼事務局長	神代 眞澄

【職員】			
新任	経営管理センター	-	小柳津 嘉将
	学生支援センター	-	木原 奈穂子
	国際化推進センター	-	中山 理枝子
昇任	図書館(美術館)	-	樋口 聡子
	アドミッションセンター	-	太田 綾子
	女性リーダーシップセンター	-	江藤 伸康
昇任	経営管理センター	-	弓 洋子
	言語教育センター	-	倉橋 美紀子
	国際化推進センター	副センター長	馬場 広希

(2023.4.1~2023.9.1)

福岡女子大学100周年記念事業

未来を拓く なでしこの花 一人を育て、知を生かす一



寄附報告

福岡女子大学100周年記念事業基金へのご寄附に、心からの感謝を申し上げます。

計	件数	寄附額
	1,702件	234,624,776円

(2023年6月30日現在)

領収書について

2023年1月1日から2023年6月30日までに寄附いただいた皆様には、2023年7月末頃までに「福岡女子大学 百周年記念事業基金寄附金領収書」を発送しております。

この領収書は確定申告時に必要となりますので、大切に保管いただきますようお願いいたします。

また、ご寄附いただいた方で領収書がまだ届いていない方は、お手数ですが、100周年記念事業推進室までご連絡いただきますようお願いいたします。

寄附者ご芳名

福岡女子大学100周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、多大なご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2023年1月1日から2023年6月30日までに寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名のご公表を希望されない方は掲載しておりません。

今後とも福岡女子大学100周年記念事業への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

※本学ホームページにおいて、寄附開始以降、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載しております(ご公表を希望されない方を除く)

1 お名前・寄附金額の掲載について ご了承ください

※寄附金額別、五十音順にて掲載させていただきます。
カッコ内の数字は累計寄附金額です。

500万円	日本ゼオン株式会社様	ダベンポート 瑩子様 (5万円)
100万円	多田 洋子様 (120万円)	
10万円	あいおいニッセイ同和損保株式会社福岡支店様	長 素子様
	神代 眞澄様	永野 千佳子様
	株式会社コンテンツ様	中村 優子様
	中ノ瀬 順子様 (20万円)	林 シノブ様 (72万円)
	西原 そめ子様 (20万円)	廣吉 宣子様 (5万円)
	渡辺 智子様	
5万円	岡本 恵様 (31万円)	
	Stott Nigel様 (15万円)	
	戸田 徹郎様	
3万円	飯田 綾香様	
2万円	平野 文子様 (4万円)	

2 お名前だけの掲載について ご了承ください

※五十音順にて掲載させていただきます。カッコ内の数字は累計寄附回数です。

あ	青柳 敬子様	さ	坂本 千恵子様 (4)	は	福岡女子大学同窓会筑業海会様
	株式会社アビオス様		佐藤 真知子様 (2)		藤井 泰子様 (3)
	石永 千寿子様		下川 幸恵様		藤元 靖子様
	石部 雄紀様		庄山 茂子様 (2)		文化ネット合同会社様
か	市吉 陽子様	た	新開 章司様 (5)	ま	松島 なをみ様
	猪塚 カスエ様 (2)		菅原 美吉子様 (4)		真殿 和弘様
	小田 幸子様 (5)		竹元 明子様 (4)		向井 剛様 (6)
	川島 伸治様		立石 邦子様 (2)		村上 祥子様 (2)
な	河原 孝太郎様	は	土屋 直知様 (2)	や	八木 良子様 (7)
	環境テクノス株式会社様		豊福 直子様 (3)		矢部 千壽子様 (6)
	柴野 脩子様 (3)		中島 千代子様 (4)		吉村 利夫様 (2)
	肥川 網代様		中嶋 貢様		米村 大輔様
さ	小島 智子様	は	日本BPW北九州クラブ様	わ	脇坂 港様
	齊藤 ヤナエ様		平岡 大作様		渡辺 静枝様

お問い合わせ はこちら

福岡女子大学100周年記念事業基金(募金)に関すること
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1 100周年記念事業推進室
TEL:092-692-3200 FAX:092-661-2420 E-mail:100th-bokin@fwu.ac.jp

編纂の寄り道

『福岡女子大学新聞』について

福岡女子大学百年史編纂室 内藤 高浩

皆さんは福岡女子大学が学生新聞を発行していたことをご存じでしょうか。

昭和27年(1952)11月10日、『福岡女子大学新聞』創刊号が発行されました。1面には奥田譲学長の「新聞創刊に際して 希う健全なる発育」が掲載されました。

新聞記事をみていくと、「平和」に関する記事が多いことが分かります。終戦から間もないこともあり、戦争のない平和な社会を目指していこうという熱意が表れています。特に、この時期の福岡市では、米軍板付基地の拡張工事反対運動や基地移転促進運動が盛んに行われていました。『福岡女子大学新聞』でも「板付から基地をなくそう」という主張(昭和28年1月26日付)や当時の板付周辺を描いた本の書評(同年5月15日付)が掲載されたことが印象的です。

このように、『福岡女子大学新聞』は福岡女子大学の草創期から学生運動まで、約20年の歴史を知るに相応しい貴重な資料でございます。



『福岡女子大学新聞』創刊号



▲当時の新聞部(「大3国(昭和31年3月卒業)アルバム」(大野城心のふるさと館所蔵))



那珂川でのボート実習(『五十年史』より)



昭和11年最新調査福岡市地図(福岡県立図書館デジタルライブラリより)

女専生とボート

福岡女子大学百年史編纂室 井手 麻衣子

女専生の回想録を読むと、ボートで遊んだという話がよく目にとまります。女専の体育の授業では、須崎キャンパス近くの那珂川でボート実習の時間を設けていました。時間になると、生徒たちは我先にとボート乗り場へ駆け出したといいます。学校側は河口から博多湾へ出ることを禁じていたようですが、夢中になるあまり、西公園まで漕ぎ出でてしまう者もいました。大濠公園でもボートに興じ、ボートの扱いに慣れず怖がる男性を横目に、女専生は平然と乗りこなしていたといいます(『福岡女子大学五十年史』手記より)。

時が流れ、本学には令和元年(2019)に漕艇部が発足し、デビュー戦となる朝日レガッタでは上位にランクインしました。もちろん、入賞は部員の努力によるものですが、本学とボートとの相性は良いのかもしれない。